



青島の風

青島日本人学校だより
平成29年12月1日
校長 金森 孝子

人との出会い

師走を迎え、気忙しさが増す頃となりました。学級では、自分やクラスの成長という視点から2学期の取り組みの振り返りを行っているところです。このような時期だからこそ、子どもたちにはじっくりと友達とかかわりながら学習や生活に取り組んでほしいと思います。

11月23日(木)は全日本柔道連盟会長、山下泰裕氏が来校されました。山下氏の来校は3度目となり、武道場の柔道着は山下氏が寄贈されたものです。私は山下氏の現役時代をタイムリーで見ており、常に注目されるスーパーアスリートのお一人でした。ロサンゼルスオリンピックでの柔道無差別級決勝戦は、山下氏の怪我をおしての金メダルと対戦相手ラッシュワン選手の「フェアプレー賞」で、今も語り継がれるほど有名な試合となりました。今回は1時間ほどの講演でしたが、子どもの集中力は途切れることはありませんでした。また体育館にいるすべての人が一言も漏らすことなく聴き入っている状況を作り出し、「超一流の語ることはちがう。」と実感させられた講演会でした。「夢はもつだけでいい。大きな力になり、そこに進んでいく。」「どんなに頑張っても過去は変えられない。後ろは振り向かない。」「人生は何が幸いするか分からない。」語られる言葉一つ一つに重みがありました。講演が終わり、山下氏から、子どもたちの聞く態度と質問の素晴らしさを誉めていただきました。「子どもたちとの距離がぐっと近くなった。」と感想もいただきました。山下氏自身、講演の手ごたえを感じられたようでした。校長として大変誇らしく思いました。



人生は「人との出会い」といっても過言ではありません。山下氏の発せられた言葉、そして氏との出会いが、子どもたち一人一人の心に、道しるべとして残ることを期待してやみません。

本校の ICT 活用

情報教育担当 富川 淳

文部科学省は2016年、情報や情報手段を主体的に選択し活用していくために必要な情報活用能力を、各学校段階を通じて体系的に育てていくことの重要性について発表しました。急速に進化するICT(情報通信技術)などの技術を使いこなす素養を、全ての子どもたちに育てていくことが重要だと指摘し、「プログラミングを含む情報科学」への取り組みが必要だと伝えています。それに向け、本校でも様々な取り組みを行っています。

授業におけるICTを活用した取り組みでは、パソコンやタブレットを用いて教育的効果を高めることをねらいとしています。例えば算数や数学では学習した内容を視覚的に再確認することで理解を深めます。また、図工のように様々に活動が変化していく教科では、タブレットを用いて自分で写真に記録していくことで表現の変化を捉え、活動を振り返りやすくすることができます。

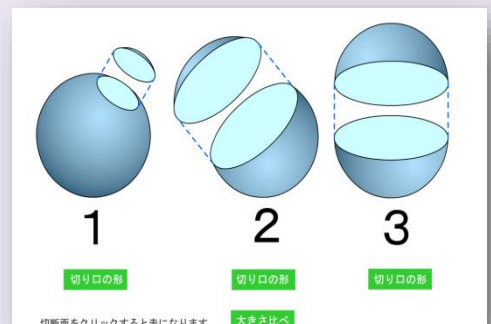
さらに、子ども自身が情報機器を使いこなす取り組みも行っています。小学部低学年からパソコンの使い方、情報モラルの学習を始めとした段階的な取り組みを行い、現在小学部4学年の社会科では、調べた県の特徴をプレゼンテーションソフトでまとめ発表することを実施しています。

新学習指導要領からはプログラミング学習の導入など、新しい学習も始まります。急速に発展する情報化社会に向けて、在外施設である本校のよさを生かした取り組みを今後も行っていきたいと思います



ソフトを使って
発表する姿

視覚的な理解を
深める活用



教室の窓 小学部3年

小学部3年担任 鹿野誠一郎

2学期が間もなく終わろうとしている今、4月のわんぱく3年生の顔が、たくましい3年生の顔に変わってきました。様々な行事や体験を通して大きく成長したと言えるでしょう。

3年生らしさがでた行事と言えば、3年生がリーダーシップを発揮した農業体験学習です。その体験学習での一番の収穫は何だったのでしょうか？それは、3年生のリーダーとしての成長ぶりを見ることができたことです。出発式で各グループの先頭と最後尾に凛々しく立って、グループを整列させたり、司会進行を自分たちの力で進めてくれたりしていました。また、バスの中や降りてからの整列、たくさんのビニルハウスの見学時の並ばせ方など、大活躍でした。わずか半年の間に、一人一人が友だち同士と根を広げ、お互いのいいところをたくさん吸収して、心の葉っぱを大きくひろげ、下級生の面倒も見ながら、ぐんぐん成長してきていることに感心させられました。まるでお芋さんの苗植えから収穫までの成長と重なるようで、とても嬉しく頼もしくまぶしく感じました。これからのさらなる成長が楽しみです。

さらに、3年生の底力を見せてくれたのが、学習発表会の「みんな仲間」の発表でした。「いじめをなくしたい」「差別は絶対いけない」を全校にアピールしました。話し方・表現の仕方など、どうしたらみんなに分かってもらえるかなど何度も何度も話し合い、練習してきました。この結果、他学年からそして親から「良かった」の言葉をもらった子どもたちは、納得できる発表ができたことに満足することができました。

まだ3年生の途中ですが、「かしこく・やさしく・たくましく」のクラスの目標を胸に秘め、成長し続けることでしょう。



教室の窓 小学部5年

小学部5年担任 西村拓也

5年生の学級では、子どもたちのお互いの距離が近く、何をすることもよく話し合いを行います。

先日行った国語科「グラフや表を用いて書こう」の学習では、「社会はくらしやすい方向に向かっているか」について意見文を書きました。そして、それぞれの根拠をもとに、社会がくらしやすい方向に向かっているかどうか話し合いを行いました。

話し合いの中で特に焦点になったのは、地球温暖化でした。1回目の話し合いでは、地球温暖化を防ぐ取り組みであるパリ協定に中国、アメリカが入っていない事実から、温暖化の原因 CO2 の排出量は増えてきているだろうという予想が出ました。では、予想を裏付けるデータはあるのか？授業後、学校や家庭で、それぞれがさらに具体的なデータや資料を集めました。2回目の話し合いでは、CO2 排出量の年度ごとの具体的なデータを述べたり、風呂の残り湯を洗濯に回すように、身近なところでも地球温暖化を防げると述べたりするなど、それぞれの話により具体性が増しました。では、今後地球温暖化は防げるのか、このことが焦点になったところで、2回目の話し合いが終わりました。

社会のニュースに目を向けながら、自分たちの生活と結びつけて、学習課題に向かっていく、その中で新たな学習課題が生まれてくる、このような学習のサイクルを大切に今後も5年生では学習を進めていきます。

